

2016/2020 オリンピックに向けた強化方針 (FJE 選手強化本部)

－ 強化方針 －

2008年北京オリンピックでの男子フルーレ個人銀メダル獲得に続き、2012年ロンドンオリンピックでも男子団体銀メダルを獲得した。さらに女子個人フルーレにおいても、2大会連続入賞、女子フルーレ団体での入賞を果たした。これは日本全体の競技レベルがさらに向上したことの証である。

この要因として、次のような点が上げられる。

第一に世界トップレベルのコーチングスタッフを揃えることができたことである。さらには、それを支えるアシスタントコーチのレベルアップが図られたことである。それにより2010年世界選手権男子フルーレ団体の銅メダル、同年のアジア大会での女子エペ団体の金メダルを含む8個のメダル獲得、そのほかアジア選手権やワールドカップ大会での多くのメダル獲得など、全種目で着実に国際競技力が向上した。

第二には、若い年代からの育成システムが機能し始めたことである。ロンドンオリンピック出場選手の殆どが、小学生時代からフェンシングをはじめ、カデジュニア世界選手権でメダルを獲得している。さらに2012年、2013年と連続して世界カデ選手権男子フルーレ個人ではメダルを獲得しており、フルーレについては優秀な選手を輩出し続けていく日本独自のシステムが出来上がって来たと考えられる。

第三には、練習拠点の整備が上げられる。北京オリンピック以降、拠点となる国立スポーツ科学センターや味の素ナショナルトレーニングセンターの練習場が整備され、充実した練習をすることが可能になってきた。

第四には、スポンサーのバックアップの体制充実が上げられる。北京オリンピック以前は限られた代表のみのバックアップであったが、北京オリンピック以降は多くの選手がスポンサーからの恩恵を受けることができるようになってきた。

これらフェンシングを取り巻く環境が整いは始めたことにより、日本の国際競技力は大きくレベルアップしてきている。

選手強化本部では、さらなる発展をめざし2016年・2020年オリンピックに向けた強化方針を策定した。

1. 目 標

- (1) 2016年、2020年のオリンピックでのメダル獲得
- (2) 全種目でのオリンピック出場

2. 目標達成に向けた課題

- (1) 競技力の向上

オリンピックでのメダル獲得には、出場資格獲得が前提となる。そのためオリンピック前年に当たる2015年、2019年での世界ランキング個人16位以内、団体8位以内を目指した競技力の向上が必要である。

2016/2020 オリンピックに向けた強化方針 (FJE 選手強化本部)

(2) 情報の収集と分析

近年、国際競技会では映像などの情報活用能力が勝利を分ける大きな要因となっている。情報を効果的に収集し、ナショナルチームコーチングスタッフがそれらを的確に分析し、対応策を立案・実行していくことが目標達成には不可欠である。

(3) 練習環境の整備

選手が競技に集中できるような環境づくりが必要である。そのための財源確保、練習場所の整備、サポートスタッフの充実を図る必要がある。

3. 強化の方向性

世界トップ 16 カ国の選手の平均年齢を種目別に調査した結果では、フルーレとサーブルではおよそ 20～28 歳（女子フルーレは 30 歳を超えている国が 2 カ国ある）、エペではおよそ 23～32 歳であった。2020 年オリンピックでメダルを獲得するためには、逆算すると、フルーレとサーブルでは現在およそ 13 才から 21 歳（主にカデとジュニアあるいはシニアになって間もない）の選手、エペでは 16 歳から 24、25 歳までの選手（カデ・ジュニアから 24,25 歳までのシニア選手）が、2020 年のオリンピックに出場する可能性の高い選手達といえる。

現在このカテゴリーのタレントを発掘し、各カテゴリー国際大会で表彰台に立てるレベルに育て、2020 年のオリンピックに向けて、いかに継続的に強化することが不可欠である。

ロンドン五輪以降、将来有望なカデ・ジュニアカテゴリーの強化方法は、強化拠点において、ナショナルチームとの合同練習を導入し世界を目指した強化を図っており、これらの取り組みの中から、優秀な競技者が育ってきている。

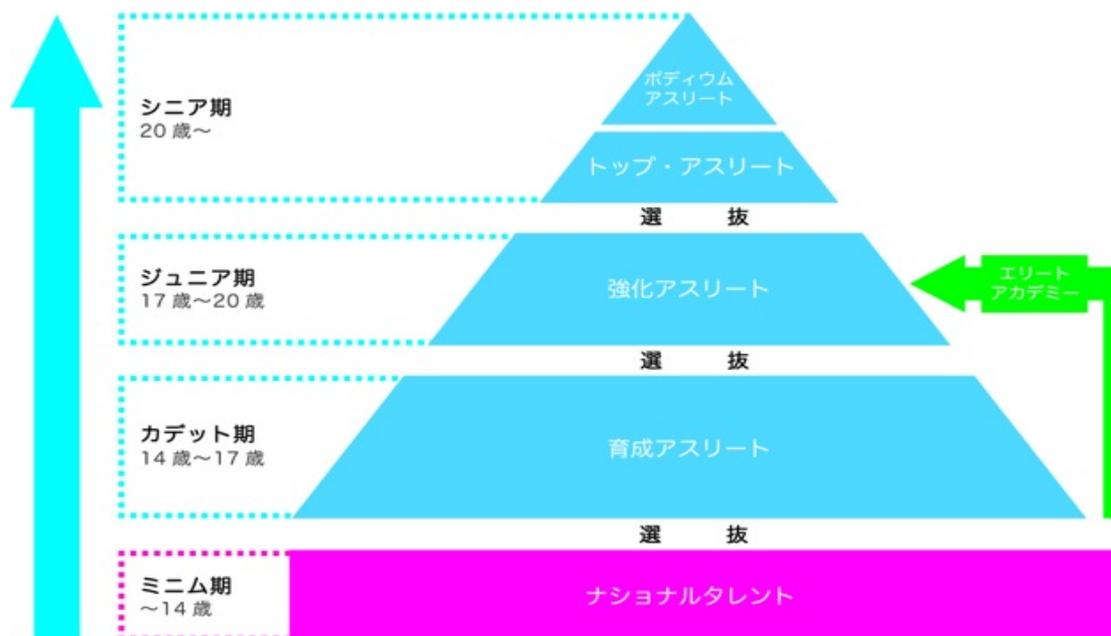
このように、2020 年オリンピックに向けた将来有望なカデ・ジュニアの発掘と育成は、体制を整え、進みつつある。

これまで、優秀選手を強化拠点に集め、強豪国と同じ練習量を確保できる環境（練習場の確保を含む）及びフルタイムで練習可能な環境を整え、その成果が確実に出てきている。

その一方、強化費が不十分なため、エペ、サーブル種目の選手たちを同じように強化することが難しく、それが種目ごとの成績の差として表れてしまっているという現状もあるが、現在の JOC エリートアカデミー生及び同カデカテゴリーにおいて有望な競技者も育ちつつある。これらを長期強化の対象として積極的に強化を実施するとともに、発掘・育成から引き上げた選手や国内ランキング等から選抜したタレントを一人でも多くナショナルチームと共に現場に入れ込むことにより各カテゴリーの国際競技力を段階的、計画的に向上させる。

2016/2020 オリンピックに向けた強化方針 (FJE 選手強化本部)

競技力向上の仕組みとその計画 (スキーム)



概要

- ① 発掘・育成の段階では全国をターゲットにして、各カテゴリー国内ランキング制度を導入し、上位者についてはナショナルタレントとして積極的に発掘する。
- ② 発掘・育成・強化の概念を共有し、段階的な強化体制を確立する。
- ③ オリンピックメダリストはジュニア時代に活躍していることから、カデ、ジュニアの段階での強化体制を進める。
- ④ ジュニア時代にメダル獲得（上位にランク）していなければシニアで勝つことは難しいことから、積極的にジュニア・カデカテゴリーワールドカップに派遣する
- ⑤ 発掘・選抜されたジュニア、エリートアカデミー、大学生、シニア、ナショナルチームが強化拠点（NTC）で一緒に練習を行う形で育成・強化することにより、同じコーチの指導のもと、上のカテゴリーの選手を含めて競争させ、短期間で競技力を向上させる。
- ⑥ 強化の段階では専門性の高いプログラムが必要であり、マルチサポートとの連携のもと、フィジカル、コンディショニング、栄養、心理など質の高いプログラムを提供する。
- ⑦ 日本フェンシング協会スタッフとマルチサポートスタッフとの連携を図り、協会独自で活動できるマニュアルを作成する。